

子どもの「考える力」を育むこと～身近なもので考えて作る遊びを楽しむ

新型コロナウイルスの影響による外出自粛が続く中、自宅で過ごす時間が多くなっています。小さい子どもがいる家庭の保護者にとって、毎日子どもといっしょに過ごす時間は楽しい時間ではありますが、大変だと感じる時間のほうが多いのも事実だと思います。

家の中には、テレビゲームや YouTube、スマートフォン、高機能なおもちゃなど子どもを惹きつけるものが数多くあります。情報化が進んだことにより、子どもたちは生まれた頃からデジタル機器に囲まれて暮らしており、その環境が当たり前となってきました。加えて、新型コロナウイルスによる休校も続いているため、タブレット学習やオンラインレッスンなどデジタル機器を使用する機会もますます増えてきました。子どもたちは一日のうちの長い時間をデジタル機器に触れて過ごしているということになります。

便利になったことが多いですが、デジタル機器に囲まれた生活をしていると頭に入る情報ばかりが多くなってしまいます。大人もそうですが、特に感受性が豊かな時期の幼い子どもたちにとっては、流れてくる情報を吸収するだけの受け身であるよりも、自ら考えることが大切になります。テレビゲームや YouTube もいいが、子どもの成長過程を考える上では、大いに五感を使って身の回りにある様々なものに触れて素材の違いを楽しんだり、自ら考えて遊びに必要な道具を作ったり、工夫して遊んだりする経験してほしいものです。

たとえば、広い公園や森へ行って自然と触れるのもいいでしょう。自ら考えたり工夫したりして遊ぶという点においては、キャンプなどが子どもにとっては最高にいい学びとなります。キャンプでは家と違い、必要なものがすべて揃っているわけではありません。自然の中では必要な道具がその場がないときに簡単にコンビニへ買い物へも行くこともできません。その場にあるものを代わりに使うことができないかを考え、場合によっては自分で作ることも必要となります。

考える力を養うことは、キャンプ以外に家でもできることもたくさんあります。その際に一番のポイントとなるのが、おもちゃを与えすぎないことです。筆者の家には電車や車が大好きな男児が二人います。男の子に人気のタカラトミー社のプラレールとトミカが大好きで、「次は消防署が欲しい！」「僕は駅がほしい！」など、ほしいものが止まることなくいくらでも出てきます。買ってあげたいのが親心ですが、まずは親が我慢をすることです。子どもが欲しいがおもちゃをすぐに買い与えるのではなく、家にあるもので代わりとなりそうなものがないか探してもしない場合は「おうちにあるもので作ってみよう！」と誘ってみましょう。

子どもがまだ小さいなら親と一緒に作ってあげるのもいいですし、親が子どもの年齢に応じたヒントを与えて子ども自身に作ってもらうのもいいかもしれません。その際は、道具の正しい使い方をきちんと教え、危険がないように見守ることも必要です。親子で一緒に工作することは双方にとって生涯の良い思い出となります。また、子どもの想像力は大人を超えることが多々ありますから、親が驚くようなものができるとも多々あることでしょう。

その際に使うものとして、積み木やレゴのブロックなどでもいいですが、筆者が大いに薦めたいのは家庭にもある身近な生活用品の廃材です。宅配サービスを利用した際の段ボール、飲み終えた牛乳パックやペットボトル、使い終わったティッシュ箱やトイレットペーパーの芯、買い物でもらう紙袋など、一般的にはごみとして捨てられますが、実はとてもよく使えるのです。そして、何よりも身近なものを再利用して使うことで物を大切にする気持ちを育むこともできます。これらの廃材の他にも、紙皿や紙コップ、輪ゴム、ストロー、折り紙、布、毛糸などもとてもいい材料となります。以下に作品例や作成方法の紹介が続きます。

▼作品例：

① 積み木で作った消防署とモアイ像



② 牛乳パックで作った苗ポット



③ 紙袋で作った鬼のかぶり物



④ 牛乳パックかまくら（右奥） トンネル（手前）とペットボトルタワー（真ん中）



⑤ 牛乳パックと段ボールのおもちゃ棚（左）と段ボール冷蔵庫（右）



- 1～3：筆者の子どもたちが作成
 4：公園に展示されていた小学生と中学生の作品
 5：筆者の子どもが通う保育園の先生が作り、実際に園で使われているもの
 （※許可を頂いて掲載致しております。）

▼雪印メグミルク株式会社公式 HP

牛乳パック工作の紹介：<https://www.meg-snow.com/fun/make/>

※牛乳パックを再利用する際は、水で中をすすぎ、よく洗って乾かしてから使いましょう。

通信環境や物流が発達し、デジタル機器が普及し情報化社会となったおかげで私たちの生活はとても便利になりました。家にいるままでもテレワークで仕事、オンラインで授業、インターネットで買い物、テレビ電話や SNS で友達とコミュニケーションをとることができます。そのおかげで、長く続けている自粛生活を維持できています。

しかしながら、同時に便利すぎた故に情報過多による疲れやリアルに体験する機会、自分で考える機会の損失というデメリットがあるのも事実です。「デジタルデトックス」という言葉も生まれているように、時には便利さからあえて少し離れ、自分で考えて工夫することも必要です。大人も子どもも豊かな心を育むことは心のバランスを保つためにも大切です。

新型コロナウイルスで世界中がマスク不足になったとき、日本では手作りマスクが広がりました。自ら考えて工夫ができる力は生きていく力にもなります。愛する子どもの未来を案じるからこそ、親は子どもが欲しがるものに対して安易に与えるのではなく、考えて工夫する力を育むことが大切であります。買うことよりも考えて作ることにはるかに時間も労力もかかり大変です。答えを教えることよりも方法やヒントを教えることが親にとっても我慢を強いられます。それでも、これを続けることが大事なのは、子どもが将来自らの力で考えて人生を切り開いていける大人になることに繋がるのだと筆者は強く信じています。

文/写真 [原田捷子](#)